

Shokuhin News -2008 November-

神戸大学 農学部 生物機能化学科 食品・栄養化学研究室

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町 1-1 電話 078-803-6553 Fax 078-803-6553

e-mail: shoku@kobe-u.ac.jp http://www.kobe-u.ac.jp/shokuhin

News

中川聡史 結婚

10月19日(日)、芦屋のゲストハウス「アンビジュール芦屋」にて中川聡史氏(03年3月修士修了)の結婚式が執り行われた。OB・OGの出席者は、永安氏、小土井氏、薮下氏の独身3名。



幸せな二人。

末永くお幸せに！

秋の学会特集

秋の学会シーズン到来。11月は日本香辛料研究会、日本フードファクター学会、新潟国際シンポジウムと続き、学生が研究発表を行った。また、金沢教授は台湾での国際学会に参加し、講演を行った。

日本香辛料研究会

11月14日(金)・15日(土)、金沢大学角間キャンパス(石川)にて第23回日本香辛料研究会が開催され、当研究室からは田中麻貴(M2)が口頭発表を行った。

シンポジウム「バニロイド受容体の科学」では、辛味などを感じるバニロイド受容体(TRP)の発現量

が寒さの感じ方にも関与することなど、香辛料研究と関連する分野からの非常に興味深い講演があった。また、懇親会では、ここ最近の不景気を払拭するかのような、贅沢な北陸の海の幸が満喫できた。来年は大阪市大の予定。

田中からのコメント。

初めての口頭発表は思った以上に準備に手間取り、2日前に夜中まで橋本先生に発表練習に付き合っただき、何とか発表に臨みました。本番、自分の出番が迫ってくると急に緊張してしまいました。質疑応答では橋本先生の助けを借りるなど、何から何まで橋本先生に迷惑をかけてしまいました。橋本先生、ありがとうございました。

発表・質疑応答とも不甲斐ない結果となりましたが、研究会で発表をしたことは自分の研究を見直す良い機会となりました。卒業までもう少ししかありませんが、日本農芸化学会2009年度大会では自信を持って発表できるデータを出すため頑張っていこうと思います。そして M1、B4 のみなさん、学会の準備は早すぎるくらいから準備しましょう。

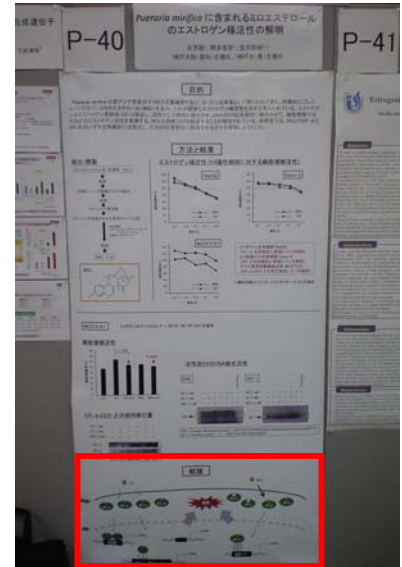
M2 田中 麻貴

日本フードファクター学会

11月17日(月)・18日(火)、タワーホール船堀(東京)にて第13回フードファクター学会が開催され、当研究室からは谷芳能(M2)と吉村和人(M2)が、それぞれポスターおよび口頭での研究発表を行った。金沢教授からは前日まで発表に関するアドバイスを受けてはいたが、ともに初めての学会発表で右も左も分からないこともあり、不安な当日を迎えた。

現地に前日入りし、体調と気持ちを整えていた谷は、質問にいられた方にも焦ることなく対応していた。また、福田伊津子助教(食の

安全・安心科学センター)と熱い研究についての議論を交わし、とても有意義な発表であったかにかがえた…と言いたところだが、谷自身は、その後の橋本助教の強烈なダメ出しに反省し、さらにポスターを大きくつくり過ぎたため、肝心の結論が見にくい構成(写真参照)となったことを悔やんでいた。



谷の巨大ポスター。

一方、吉村は、金沢教授から直前になって発表原稿の訂正を言い渡され、発表直前まで廊下でひとり練習に励んでいた。しかし、質疑応答でも先生方の質問の意味を理解できず不甲斐ない結果に終わった。発表後は金沢教授から手厳しい説教を受けたものの、しばらくは放心状態だった。



発表が1時間前に迫り余裕がなくなっている吉村(M2)。

このように、二人とも、修士論文を目前に、研究成果をまとめるつもりが、逆に不安の残る学会発表となった。

谷からのコメント。

はじめての学会発表で、金沢先生のチェックは数分間の一回きり、ポスター印刷は出発前日の事務が閉まる直前という不必要なチャレンジをしてしまいましたが、ギリギリのところでも上田君や吉村君から適切なダメ出しを頂き、同期の有難味を実感することができました。発表当日には橋本先生から失笑と痛切なアドバイスを頂いてしまいましたが、今後の実験の励みにしたいと思います。最後になりましたが、研究室の皆様には色々ご心配やご迷惑をおかけしたように思います。この場を借りてお詫びと御礼申し上げます。

M2 谷 芳能

新潟国際シンポジウム

11月29日(土)・30日(日)、新潟コンベンションセンターにて4th International Niigata Symposium on Diet and Healthが開催され、当研究室からは田中麻貴と中林秀郎(共にM2)がポスターによる研究発表を行った。ともに初めての国際学会とあって、橋本助教の指導の下、英語での発表を直前まで猛特訓していた。ポスター会場に訪れた外国人研究者からの英語による質問には苦戦したもの、有意義な発表であった。

シンポジウムは二日間での来場者数が280名程であったが、招待講演者は、B.B. Aggarwal(テキサス大学)、R.H. Dashwood(オレゴン州立大学)、B. Halliwell(シンガポール国立大学)、Y.-J. Surh(ソウル大学)など著名な研究者が顔を揃えた。一方、ポスター発表会場では、中林のふたつ隣でポスター発表を行った武庫川女子大学附属高等学校・スーパーサイエン

スコースの女子高生がひととき目立っていた。なお、その引率者は森敦美氏(05年3月修士修了)。



英語での質疑応答に疲れ気味の中林と元気な高校生(矢印)。



田中(左)と森敦美氏。



別のシンポジウムに参加していた服部栄養学園の服部幸應理事長(中央)と記念撮影する中林と田中。

29日の夜には懇親会が開かれ、田中と中林は、海外研究者たちとの記念撮影に夢中になっていた。また、懇親会後は、水野雅史教授

(糖鎖機能化学研究室)と、その研究室の学生と一緒に2次会へ。お酒がまわった勢いで居酒屋の店員さんに絡みつつ、新潟の夜を楽しんだ。

中林(M2)からのコメント。

ポスター制作の際には、橋本先生に大変お世話になりました。この度、学会発表に参加することができ、これまでお世話になった先生方、先輩方に改めて感謝しています。ディスカッションで、自分より二回りぐらい大きな外国人の方に英語で質問されたときは、その威圧感に圧倒されて上手く答えることが出来ませんでした。それを含めて学会に出てよい経験ができたと思います。

M2 中林 秀郎

生物機能化学実験Ⅰ 打ち上げ

11月5日(水)に生物機能化学実験Ⅰの打ち上げを研究室で行った。橋本助教提案のカレー鍋(水野教授から差し入れていただいた“カレー鍋つゆ”を使用)を谷と田中らが調理し、ティーチングアシスタントの上田(M2)や実験をサポートした M1 や B4 の労を労った。学生実験終了直後に始めたため、最初はみな疲れ気味であったが、酒もまわった勢いで23時過ぎまで盛り上がった(?)。



田中・谷作のカレー鍋。最後はカレー雑炊。



酔った橋本助教と B4の反省会は延々と続く。起きているのが下秋(右)、寝ているのが左から桃田、河野、高見。

業績

学会発表)

第23回日本香辛料研究会 (11月14日・15日、金沢大学角間キャンパス、石川)

○田中麻貴、橋本堂史、芦田均、永井雅、奥西勲、金沢和樹「6-メチルスルフォニルヘキシルイソチオシアネートの細胞周期開始に及ぼす影響について」講演要旨集 p.43

第13回日本フードファクター学会 (11月17日・18日、タワーホール船堀、東京)

○吉村和人、橋本堂史、金沢和樹「フコキサンチノールがアポトーシス誘導をする標的タンパク質の解析」大会要旨集 p.51

○谷芳能、橋本堂史、金沢和樹「*Pueraria mirifica*に含まれるミロエステロールのエストロゲン様活性の解明」大会要旨集 p.93

The International Society for Nutraceuticals and Functional Foods Conference (14-17th Nov. 2008, Taichung, Taiwan)

○Kazuki Kanazawa. Anticarcinogenic activity of artemisinin C in Brazilian propolis following to its bioavailability.

4th International Niigata Symposium on Diet and Health (29-30th Nov. 2008, Niigata)

○Nakabayashi H., Hashimoto T., Ashida H., Nishiumi S., Kanazawa K. Effects of methylxanthines on differentiations of mouse 3T3-L1 preadipocytes to mature adipocytes and on uptake of glucose in mature 3T3-L1 adipocytes. Abstract p.83

○Tanaka M., Hashimoto T., Ashida H., Nagai M., Okunishi I., Kanazawa K. 6-Methylsulfinylhexyl isothiocyanate inhibits cell cycle progression stimulated by fetal bovine serum in quiescent JB6 cells. Abstract p.111

論文発表)

Miho Goto, Keisuke Ueda, Takashi Hashimoto, Shinji Fujiwara, Kayo Matsuyama, Takashi Kometani and Kazuki Kanazawa. A formation mechanism for 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine mediated by peroxidized 2'-deoxythymidine *Free Radic. Biol. Med.* 45(9), 1318-1325, 2008

Events

○研究室忘年会

日時:12月26日(金)18時より
場所:八悟

直前の連絡になりましたが、忘年会に参加していただける OB・OGの方は shoku@kobe-u.ac.jp または研究室(078-803-5877)、東(090-7553-4859)のいずれかにご連絡下さい。

○OB・OG 忘年会

日時:12月28日(日)12時半より
場所:美味しんぼ(三宮)
078-392-0148
http://www.hotpepper.jp/A_20700/strJ000020588.html
会費:5000 円

急で申し訳ございませんが、予約の都合もありますので、12月26日正午までに、橋本堂史までメー

ル(takashi@kobe-u.ac.jp)または電話(078-803-6553)にて、ご連絡いただきますようお願いいたします。

編集後記

初めての学会発表をしてきました。講演会場の厳粛な雰囲気と先生方の多さに圧倒され、発表・質疑応答ともにふがいない結果に終わってしまいました…。当初は口頭発表を選んだことを酷く後悔しましたが、金沢先生にスライドから発表までマンツーマンで御指導いただきとても勉強になりました。また、発表に際してありがたい助言をくれた上田君と谷さんにとっても感謝です。残念な結果でしたが、最悪無事終わることができてよかったかな…。残り2ヶ月、頑張りたいと思います。

吉村和人(M2)